

さらにまた,

射線と波面のなす角が直角だから,

$\angle CAB = \theta_1$, $\angle DBA = \theta_2$ より,

$AD = AB \sin \theta_2$, $CB = AB \sin \theta_1$

よって,

$$\frac{CB}{AD} = \frac{\sin \theta_1}{\sin \theta_2} \quad \dots \textcircled{3}$$

①, ②, ③をまとめると,

$$\frac{CB}{AD} = \frac{v_1}{v_2} = \frac{\lambda_1}{\lambda_2} = \frac{\sin \theta_1}{\sin \theta_2}$$

となる。

絶対屈折率

真空中の光の速さを c , ある物質中の光の速さを v とすると,

その物質の絶対屈折率 n は, $n = \frac{c}{v}$ (>1) で定義される。

相対屈折率

媒質 1 の絶対屈折率を n_1 , 媒質 2 の絶対屈折率を n_2 とすると,

媒質 1 に対する媒質 2 の相対屈折率 $\frac{n_2}{n_1}$ はであり, その記号表記は n_{12} である。

$$\text{よって, } n_{12} = \frac{n_2}{n_1}$$

また, $n_1 = \frac{c}{v_1}$, $n_2 = \frac{c}{v_2}$ より,

$$n_{12} = \frac{n_2}{n_1} = \frac{\frac{c}{v_2}}{\frac{c}{v_1}} = \frac{v_1}{v_2} = \frac{\lambda_1}{\lambda_2} = \frac{\sin \theta_1}{\sin \theta_2}$$

よって, $n_1 v_1 = n_2 v_2$, $n_1 \lambda_1 = n_2 \lambda_2$, $n_1 \sin \theta_1 = n_2 \sin \theta_2$

したがって, 次の関係式が成り立つ。

任意の媒質における絶対屈折率, 光の速さ, 波長, 屈折角が $n_i, v_i, \lambda_i, \theta_i$ のとき

$$\text{重要関係式} \quad \begin{cases} n_i v_i = \text{一定} \\ n_i \lambda_i = \text{一定} \\ n_i \sin \theta_i = \text{一定} \end{cases}$$

臨界角と全反射

光が屈折するとき、光の反射が必ず起こる。

とくに、屈折角が 90° になるときの入射角を臨界角といい、

入射光が臨界角より大きくなると、光の屈折はおこらず、光の反射だけが起こる。

この現象を全反射という。

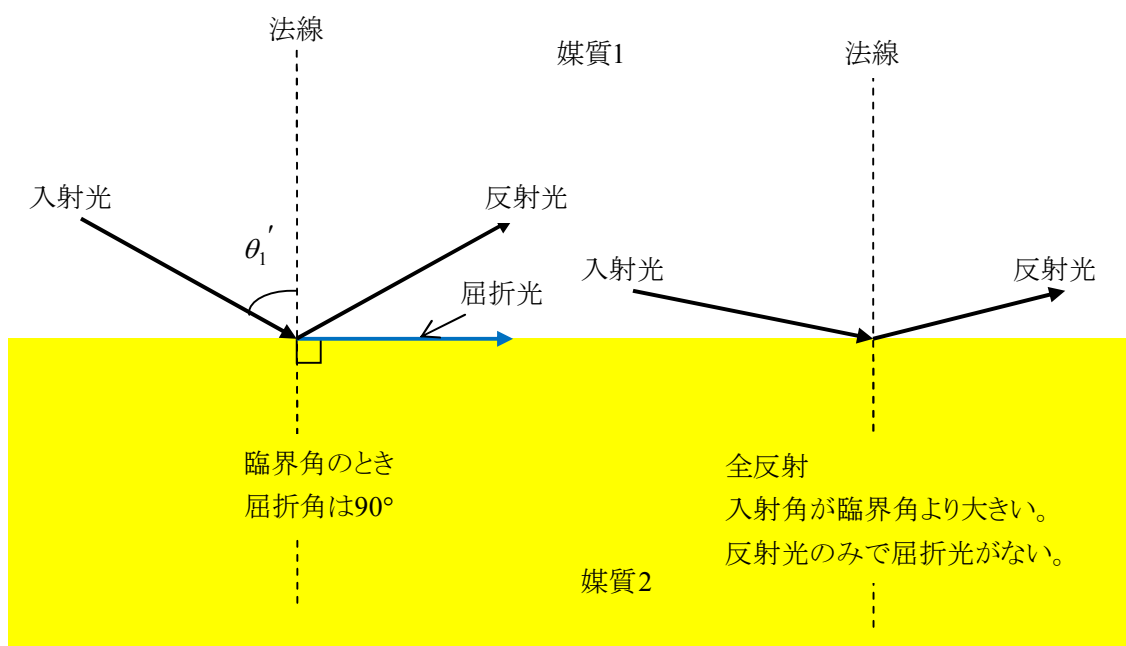
媒質 1 の絶対屈折率を n_1 、媒質 2 の絶対屈折率を n_2 、

また、光が媒質 1 の中から媒質 2 の中へと進むとき全反射が起こるとし、

そのときの臨界角を θ_1' とすると、

$$n_1 \sin \theta_1' = n_2 \sin 90^\circ \text{ より,}$$

$$\sin \theta_1' = \frac{n_2}{n_1} = n_{12}$$



入射光，反射光，屈折光のエネルギー保存則

次のエネルギー保存則が成り立つ。

入射光のエネルギー＝反射光のエネルギー＋屈折光のエネルギー

全反射の場合，

屈折光のエネルギー＝0 より，

入射光のエネルギー＝反射光のエネルギー

光ファイバーは全反射の性質を利用しているので，反射光のエネルギーの損失が小さい。

したがって，遠く離れた地点間で光を利用した情報伝達が行える。

光学距離（光路長）

光が速さ v ，時間 t で，絶対屈折率 n の媒質の中を進んだ距離を l とし，

この距離を，光が真空の中を進んだ距離 L に換算すると，

$$l = vt, \quad L = ct \quad \text{より,} \quad \frac{L}{l} = \frac{c}{v} = n \quad \therefore L = nl$$

この L を光学距離（光路長）という。